

P290 トセ 総合アレルギー対策住宅の気道炎症改善効果

土橋邦生¹⁾ 久田剛志²⁾ 小河原はつ江¹⁾
三田村輝章³⁾ 清水泰生²⁾ 宇津木光克²⁾
原澤浩毅⁴⁾ 石塚 全²⁾ 森 昌朋²⁾ 村上博和¹⁾
(群馬大学 医学部 保健学科¹⁾ 群馬大学大学院 病態
制御内科学 呼吸器・アレルギー内科²⁾ 足利工業大学
工学部 建築学科³⁾ ハラサワホーム株式会社⁴⁾)

【目的】喘息の症状悪化に抗原やPM10などの微粒子の吸入が大きく影響する。これらを除去できる装置を備えた総合的アレルギー対策住宅が、居住者の気道炎症に与える影響につき検討したので報告する。【方法】アレルギー対策住宅に転居する1ヵ月前、1ヵ月後、3ヵ月後に、喘息症状のない3組の居住者夫婦の呼気中NO濃度の測定を実施し、同時に住居内のダニ抗原の量も測定した。どちらか一人は、喘息以外のアレルギー疾患を有していた。【成績】アレルギー疾患を持つ3人とも呼気中NO濃度は、転居前後の1ヵ月において顕著な低下が見られた。現在転居3ヵ月後まで測定できた2人については、低値が持続していた。1秒率が低下していた1人は、転居により67.6%から76.1%へと改善した。室内のダニ量は、旧居で検出され、新居では検出されなかった。【結論・考察】アレルギー対策住宅への転居により、NO濃度は顕著に低下した。無症状でも気道炎症を有する喘息予備群が存在した。環境整備により気道炎症を抑制できることが示され、その重要性が示唆された。